

地域林政対談 イン熊本

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第六弾は、高橋周二南小国町長、北里耕亮小国町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



小国杉



南小国町庁舎

新たな木材産業拠点で付加価値のある商品を作っていきたい 〔南小国町長〕

南小国町は「小国杉」の産地として古くから林業が営まれているが、担い手の不足と高齢化、木材価格の低迷により、町内でも森林整備が進んでおらず、また、木材産業が衰退している状況にある。そこで、建築材以外にも需要を見込めないかと考え、交付金を使って、新たな木材産業拠点「Fablab（ファブラボ）阿蘇南小国」を設立し、7月のオープンに向けて準備を行っている。だれでも自由に使うことのできる木材加工施設で、3D木工用機械やレーザー加工機を設置するとともに、杉の葉を使ったアロマオイルなどを試作しているところである。将来的に付加価値のある商品を作っていきたい。

また、木質バイオマスのエネルギー利用も進めており、町内でペレットを作ってガソリンスタンドで販売している。今後、小

国町と共同で運営している公営の病院と老人福祉施設に、地元材の木質バイオマスを利用して熱エネルギーを供給することを予定している。
林業を担う若い人があまりいないので、人をそだてなければならぬ。このため、林業機械やチェーンソーの導入に対して補助をしており、林業に従事するひとつのきっかけになればと考えている。



高橋周二 南小国町長

主伐後はしっかりと更新していかななくてはならない〔小国町長〕

「小国杉」は系統が「ヤブクグリ」と「ヤクノシマ（アヤスキ）」の2種にほぼ限定されていて扱いやすく、また、古木、銘木がある地域。油がまわり、強度があるなど品質へのこだわりがある。「WOOD・ALC」という積層集成板を開発し、カーテンウォールとしての利用を進めている。また、全国でも珍しい地熱を利用した木材乾燥施設が稼働しており、東京都新宿区のおもちゃ美術館などに出荷している。

小国町では、主伐はまだ少ないが、主伐後はしっかりと更新していかななくてはならないと思っている。再造林を進めるには大変な労力、覚悟が必要であり、町単独事業として、主伐促進の補助事業を実施しているが、財源が不足しているところ。今後、何かご助言いただければと思っている。

零細な森林所有者が多いことから、集約

化が必要だが、境界がはっきりせず苦労している。分かりやすい見積もりツールの導入等を支援をしていければと思っている。
小国町森林組合は1町1森林組合なので、他地域に比べれば町が森林組合に補助している金額が大きい。他の系統の杉が入ってほしくないことから、森林組合の広域合併などは想定していない。



北里耕亮 小国町長

●シカ対策は関係者が連携して早く手を打つことが必要

現在、九州全体的にシカ被害が拡大している状況です。市町村、県、国有林など、関係者が一丸となつて対策に取り組むことが重要です。

● 小国町長 シカ被害は、ここ5、6年でかなり増加した印象がある。

● 南小国町長 南小国町では昨年度は1百頭ほど駆除した。

● 林務課長 県でもシカネットや枝条巻きに補助している。

● 局長 シカはあつという間に増加する。定点観測やわなを掛けるなど、猟友会と連携して早く手を打つことが重要。シカ被害対策協定を各地で締結しているので、そういったこともぜひ検討してほしい。

● 小国町長 協定については、国有林の面積など制限はあるのか。

● 局長 面積等の制限はないが、国有林に隣接する民有林と一体的にシカ捕獲に取り組

● んでいる。

● 南小国町長 協定の内容はどのようなものか。

● 局長 入林届の簡素化や林道ゲート鍵の貸与、くくりわなの無償貸与など様々な連携を図ることとしている。シカの捕獲にくくりわなは有効である。協定を活用し、民国一体となつて駆除を進めたい。

● 小国町長 駆除したあとの食用肉の活用について、加工施設の設置に林野庁で補助事業はあるのか。

● 局長 農村振興局の事業で、捕獲から加工まで支援しているのでは是非活用していただきたい。

●林業事業体がしっかり山の管理をしていくことが重要

木材の販路拡大を進めるためにも、木材を安定供給していく体制が確保されていることが重要になっていきます。戦後に植林された森林資源も収穫期を迎えており、木材を生産する労働力についてもこれまで以上に重要性が増しています。

● 小国町長 小国町には、一人親方組合の47名と森林組合の林産班がある。歩合性なので、年間いくらの仕事ができるか、また、仕事に見合うだけの年収が得られるかが課題。機械の導入費用や修理代が年収にも大きく影響している。

● 南小国町長 林業機械の購入には補助を出しているが、修理代なども年収を圧迫している。南小国も林業事業体はなく、一人親方が30数名いる状況である。

● 局長 これまでは一人親方でも良かったかもしれないが、これからは主伐、再造林のステージであり、事業体がしっかり山の管理をしていくことが重要。工程管理をきちりできる生産性の高い事業体を、国有林の事業発注を通じて育成していきたい。

● 熊本県阿蘇地域振興局林務課長 まだまだ

● 現場の方は、補助金があるので間伐をする方が多いと感じる。

● 小国町長 その地域にあった林業の形態があると思う。小国は高性能林業機械も数台購入している。林野庁の補助事業にかさ上げして町でも補助している。

● 局長 自伐林家などの考え方もある。地域の資源をどう活かしていけばよいのかを考える時期となっていると思う。主伐の補助金の話だが、小面積皆伐なら更新伐ということで補助があるし、花粉対策などもある。色々検討いただければと思う。

● 林務課長 出してくれれば買うよ、という大規模製材工場の話は聞くが、なかなかまとまって材が出てこない。そこをどうするかが課題である。

地域林政対談 イン 熊本

平成29年4月28日(金)13:00~15:00

南小国町庁舎会議室

出席者(敬称略)

○ 市町村長

高橋 周二 南小国町長

北里 耕亮 小国町長

○ 熊本県阿蘇地域振興局

大和 一浩 林務課長

森本 隆之 山地災害対策課長

○ 林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長

森 勇二 熊本森林管理署長

勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

